

安心して暮らせる社会の実現に向けて、新規35項目など152項目を県へ要請
～県政共闘会議 2024年度県当初予算に関わる部局別交渉～

県政共闘会議による2024年度当初予算に関わる部局別交渉を11月21日(火)と24日(金)の2日間、県庁で開催しました。

県政共闘会議(議長・二ノ宮健治県議【由布市選出】)は、立憲民主党、大分県平和運動センター、部落解放同盟で組織され、労働組合や県下各地区から出された要望をまとめ、県当局に要請しています。御手洗秀光・佐伯市議→



長年に渡る活動で、来年度予算編成が本格化するこの時期に要請を行っていくことは重要な取り組みと位置づけています。

今回も事前に申し入れていた152項目(継続117項目・新規35項目、昨年は141項目)について回答を受け、団体や各地区からの70名(両日の累計数)を超す参加者が意見を述べていきました。



←丸木一哉・津久見市議

この紙面では、多くの意見が出された項目について報告します。



スカルリーパー・エイジ・大分市議→

※発言したのに写真のない方、ごめんなさい(広報局)

★**生活環境部**で議論になったのは、繰り返し行われる日出生台での米海兵隊実弾射撃訓練や陸上自衛隊大分分屯地の大型弾薬庫増設計画問題。

「地域の方々の不安解消のために丁寧な説明を行うよう国へ申し入れている」という回答に対して、「県は人ごととして考えているのではないか、県の主体的な動きが足りない」と怒りの声が上がりました。

★**新たな広域人事異動ルールや教職員不足の問題**が白熱した議論となったのは**教育委員会**。

「今年度末人事から負担軽減として3地域から2地域の異動とし、生活拠点や個人の事情等も考慮していく」との回答に対し、「現在3地域目の方については、どのような対応となるのか」と質問すると当初は、担当課は「3地域目の方についてもこれまで通り3年未満は異動対象とならない」と答弁。再度追及すると教育長から「1年目でも異動希望は出せる」との訂正がありました。



広瀬翔一・県教組執行委員→

★**商工観光労働部**へは、核廃棄物最終処分場の調査受け入れの問題や観光飲食関連産業の人手不足への対応。



★**福祉保健部**へは、民政委員の不足と活動支援、保育所のフッ化物洗口、国民保険料統一の問題。

←谷本義則・前津久見市議

★**企画振興部**では、障がいのある方の公共交通利用の際の安全確保、ホーバークラブト就航に関わり既存の交通機関への配慮。



宮本勝明・大分交通労組委員長→

★**農林水産部**へは、有機農業や農業就労者支援、農業と高校の連携、ジビエ料理の推進。

★**総務部**へは、男性の育児休業取得推進、移動期日前投票所設置、県職員の人材育成。

★**警察本部**へ交通安全や渋滞解消の改善要請、**土木建築部**へ道路整備や樹木の伐採や除草の要請。

公共交通関係労組や地区から切実で具体的な要望が多く出されています。すぐに改善されるものもありますが、県当局に直接言える機会として県政共闘の取り組みをこれからも活用してほしいと思います。

各地の街宣活動を紹介《その3 中津市支部》

毎月2日と8日に元気に行動!

中津市支部では高齢化の波にも負けず、党员全員元気に活動しています。

特に「毎月一回は顔を合わせる」こと! 毎月の幹事会でとにかく集まることを大切にしています。活動の中心はやはり平和運動で、毎月2日には、築城の基地化反対行動で情報共有。発信としては、毎月8日の街宣行動で平和、いのちの大切さを訴えています。数時間の生マイクパフォーマンスは結構、身体にきます(笑)。街宣車も高齢ですが、広い中津市を元気に走り回っています。【報告者 森田和宏・中津市支部幹事長】



直接、防衛省にも申す!!!

立憲大分や県センター等で組織する日出生台対策会議では、11月29日(水)、火薬庫増設計画に関わり、防衛省に申し入れました。

立憲大分では、地域住民の不安を、このように直接行動として示すことをこれからも努めていきます。



住民の不安解消を 立憲大分等が緊要